



【 「聴く」 ことについて振り返る 】

- 本校の「目指す子供像」の《知》は、「**他を契機に自分の考えを見直す子供**」です。
「行動目標」の《知》は、「**相手に体を向けて話を聴く**」です。また、「**教師の心構え3か条**」の一つの、「**聴け**（しゃべり過ぎない）」があります。そこで、これまで各担任は、「聴く」子供を育てる取組をし、2学期末に振り返りました。少し紹介します。

<子供の聴く様子でよかった点>

- ・ 発言者に顔や体を向けて聴く子供が増えた。 ・ 頷きながら話を聴く子供が増えた。
- ・ 頷きながら聴いたり、「分かる?」「え、どういうこと?」とつぶやきながら聴く姿が見られた。
- ・ 英語の意味を推測しながら聴いていた。

<その要因>

- ・ 「自分が発表する場合、周りの友達にしてほしい聴き方で聴くようにしよう」と指導した。
- ・ 机の隊形を「コの字」型にすると、やはり聴く姿はよくなる。
- ・ 日頃から、聴くよう声をかけている。



<今後、気を付けたいこと>

- ・ 聴きたくならないような課題提示や問いかけをしたい。
- ・ 毎日、「この時間!」と決めて、1時間はしっかり聴き合う授業をしており、習慣化していきたい。
- ・ どうしても自分が説明しなくてはいけないと思う自分があるので、子供が説明できるようにしていきたい。

- 「聴く」ことは、なかなか簡単にいきません。大人でも、自分に関係がないと感じる話、興味がない話、自分にとってかなりレベルが高くて難しい話などは、聴きたくないと思います。しかし、授業では、このような状況をつくらないために、「**聴くことを習慣化する**」「**聴くに値する教材や話題を提示する**」「**話し手の発言内容を充実させる**」などの工夫が必要です。今、1学期よりも子供の聴く姿が少しずつよくなってきていると捉えています。教職員の意識が高まっていることも、嬉しいことです。今後も、あせらず、地道に努めてまいります。